



医療の現場アラカルト - Vol.8

中国語担当 劉さん

私は、Medi-Way中国語通訳士の傍ら、大阪・関西万博の医療チーム(日本・中国人医療者約70人)に日本国際看護師(NiNA)として参加しています。私の業務は体調不良の外国人来場者の傍に駆け付け問診を行い、医療者に引き継ぐことです。

外国人患者対応で改めてわかったことですが外国人の方は「日本の医療システムを知らない」ことによりトラブルや不平不満が生じる元になっているのではと感じました。日曜の夜、発熱を訴える台湾の患者さんが救急受診して薬を貰いたいと希望。高熱二日目で倦怠感はあるが、他の症状はなく、応急手当所の看護師と私も救急要請するほどのものとは感じられず患者さんの希望通りにしたとすると、受入れ病院によっては外国人患者に対する診療費用が高額になる可能性があり、且つ、1-2回分の解熱剤を処方されるのみになると思われ、患者さんの希望とはいえ、後に不満が出るリスクがあると感じました。



今の時間帯で日本の病院で予想できる対応を患者さんに伝え、意向確認の上、救急受診はせず、薬局で解熱剤を入手しホテルで休養して、翌日も改善しなかったら受診することとなりました。

中国では、日本のように多くのクリニック、病院といった地域医療体制が根付いていないことから、病院に行く場合には大きな病院に行くことが当たり前とされています。そんな背景から、訪日された中国人の方も大きな病院に行って治療をしてもらうということは自然なことになるわけです。日本国際看護師は外国人患者と医療の現場をコーディネートする役割があり通訳士にも、中国の医療事情も理解しながら日本における医療の流れを患者さんに理解してもらうように常に動き、橋渡し役となるように心がけています。

「エッグコーヒー」 ベトナムの素敵な習慣」



何気ない会話の中に時々たくさんの驚きが隠れています。私たちがいる通訳センターではコーヒーが大好きな通訳士が集まっています。中には、ミルクを入れる人やブラックで飲む人、お砂糖たっぷり入れる人そして、今回ご紹介をするのは、ベトナム語通訳士が毎朝飲むというエッグコーヒー(Ca phe trung/カフェ チュン)と塩コーヒー(Cà phê muối /カフェムオイ)です。

エッグコーヒーは多くのベトナム人に愛されている飲み物だそうです。濃いコーヒーの上に、卵黄を泡立てたクリームを載せたもので、コーヒーの苦みと合うような一品です。塩コーヒーは濃いコーヒーにお塩を一つまみ入れるだけでとてもシンプルで真似しやすい飲み物です。

みなさんも朝の目覚めにいかがでしょうか。

今月のトピックス



「動物の触れ合いがもたらす健康効果」

このMedi-Way便りを読んでくださっている方の中にも、犬や猫をお家で飼育している方がいらっしゃるのではないのでしょうか。犬や猫と触れ合う時間は何ものにも代えがたい癒しの時間ですよ。

実際に、犬を5~10分撫でることで人のストレスホルモン(コルチゾール)が最大24%軽減されることがワシントン州立大学の研究結果で、また犬と見つめあうことで飼い主の幸せホルモン(オキシトシン)分泌が3倍以上に増加したことが日本の獣医大学の実験結果で証明されています。犬が飼い主を見つめる視線は、アタッチメント(愛着)行動として飼い主のオキシトシンの分泌を促すだけでなく、犬のオキシトシン分泌も活発にするのだそう。つまり犬には人の感情を瞬時に読み取り共感し、人と特別な絆を築く力があり、触れる、可愛がる、見つめあうだけで、人のストレスは実際に軽減されているのです。このワンちゃんの癒し効果は、海外の多くの医療現場で活かされているようです。その名も「ファシリティドッグ」。特別な訓練と厳しい審査基準をクリアした「癒し」のお仕事を担う合格者(犬?)の中には、コロナ禍で捨てられた犬もいるとか。不安や恐怖の伴う長期入院では、「犬と触れ合い見つめあう」「点滴の時そばにいてくれる」ことが安心や活力、痛みの軽減に繋がっているようです。日本でも今後多くのファシリティドッグが誕生すると良いなと思います。

